

稚内の教育

稚内港小学校創立50周年 全校写真(中庭にて)

巻頭言 「 コロナ禍 」

稚内市教育委員会 教育長 表 純一



「コロナ禍の・・・」挨拶の冒頭の慣用句として私も必ず使ってしまう言葉です。新型コロナウイルスとの闘いが1年半を超えました。未曾有の事態がこんなに長く続くとはだれもが想像しませんでした（少なくとも自分は）。更に、政府のコロナウイルス等対策有識者会議の尾身会長がインフルエンザと同様な対応になるまで2年はかかるとの見解を聞いてさらに気持ちが重くなりました。しかし、これからも所謂ウィズコロナの状態が長く続くのであるなら、次への展望を開くためにも、少し自分なりの整理が必要と考えこの文書を書きました。

令和2年2月の休校要請から始まり、全国一斉の休校に至るまではまさに混乱でした。卒業式の在り方に悩みましたし、その後の学校行事は中止か大きく縮小でした。授業時数の確保に全力を尽くし、何とか達成が出来ました。本市の小中学校では修学旅行は無事実施できましたが、市内の高校は中止となったと聞いています。高校生の気持ちを思うと言葉がありません。

再認識したこともたくさんありますが、やはり学校という場所の大切さではないでしょうか。学校に行けない日常は、子どもや保護者にとって不安を招くものでした。社会も混乱し、子どもの居場所は？ 母親が仕事に行けない、学校給食がなければ栄養が心配、給食用牛乳の行き先は等多くの問題が発生しました。

一挙に前進したものもあります。GIGAスクール構想による一人一台端末の実現です。学校休校に備え、リモート学習を可能にするため、想像を絶するスピードでデジタル化が進みました。今年度になると、徐々に知見が出来上がってきたと思っています。学校を休校させない、授業時数の確保を確実にする、万が一の休校に備える、学校行事は精査するが対策を講じると実施できる等、この一年で学んだことが活かされていると思います。

コロナがこのまま続き、対応に変化がなければ、学校に入学以来一度も運動会や学校祭を体験できずに卒業する生徒が出るかもしれません。この様なことが無いよう私たちは知見を活かすべきです。学びの保障には、一度しかない学校生活への思いの保障も私は含んでいると思います。

一方急激に進む教育の現場でのデジタル化は、不安や混乱があるものの、確実に教育に変化の兆しが見えます。授業を参観しましたが、子どもたちは大人より明らかにタブレットに違和感なく接していると感じました。この流れに大人が水を差してはいけません。

コロナ禍、今私たちは、想定していた未来の入口に少し早くたどり着いたような気がします。

大人の努力と更なる研鑽が必要です。私たちの資質が試されているのかもしれません。

1. 情報教育・ICT活用教育について 特集 稚内のICT活用事例

2. 良き師は隣の席にいる 宗谷小学校 炭野友美養護教諭／稚内南小学校 吉岡利頭先生